

参考資料を紹介します ⑥

磐田を 知りたい！ 調べたい！

昔、磐田にあった町村役場

市内にかつて存在した町村役場は、どこにあったのか、また現在どうなっているのかと尋ねられるときがあります。多くは現在、公民館となっていたり、中にはまだ建物が残っていて別の利用がされているものもあります。

ここでは、場所を探るヒントとなる本を紹介しますので、みなさん調べてみてください。

1. そもそも行政区域はどのように分けられたのだろうか？

行政区域の始まりは、古代にさかのぼります。奈良・平安時代には、磐田郡、山名郡、豊田郡など郡に分かれ、その下には「〇〇郷」という村がありました。

詳細は、『磐田市史通史編』、『豊田町誌通史編』、『竜洋町史通史編』、『豊岡村史通史編』などを参考にしてください。

2. 現在の磐田市はなるまでにどのような変遷をたどったのだろうか？

現在の磐田市になるまでに、明治時代、昭和時代、平成時代と3回の合併を行なっています。

「市町村沿革表」によれば、明治時代から昭和の大合併までには

福島村・豊浜村・於保村⇒**福田町**

袖浦村・掛塚村（町）・十束村⇒**竜洋町**

広瀬村・野部村・敷地村⇒**豊岡村**

見付町・西貝村・中泉町・梅原村・天竜村⇒**磐田町** ⇒ 磐田町・御厨村・向笠村・

大藤村・長野村・岩田村・田原村⇒**磐田市**

という変遷をたどっています。

『角川地名辞典』1544pより

3. 各地区の町村役場の所在

役場跡で、建物が現存しているのは敷地村役場（旧豊岡東公民館）、岩田村役場（青年の家）があります。因みに、現存していませんが、旧豊岡図書館は広瀬村役場の建物でした。

町村役場の所在地については、『磐田郡誌』上巻154pに掲載されています。

ただし、現在の地番と同じとは限りませんので注意してください。

また、同書 157 p、158 p には役場位置を経度・緯度で示してありますが、「日本測地系」から「世界測地系」に変換する作業を行う必要があります。現在はインターネットで簡単に作業ができるので試してみてください。

『磐田郡誌』上巻

4. 昔の写真を見よう！

写真で役場の昔の姿を見ることができます。

『磐田の記録写真集』

『磐田・袋井・森今昔写真帖』

5. 住宅地図で探してみよう！

中央図書館では、昭和 32 年からの住宅地図を所蔵しています。昭和の大合併が始まる頃のものなので、役場跡がその後どのような建物に替わっていったのかをみることができます。

このほか、詳細にお知りになりたいときには、レファレンス（相談）カウンターまでお尋ねください。